

年末年始の本船荷役実績の傾向等について (2023.12.31~2024.1.4)

1. 昨年との比較

		昨年	
◦年末年始荷役実施港	61港	(63港)	
◦荷役隻数 (外航・内航の合計)	762隻	(811隻)	49隻減
内訳			
コンテナ船	217隻	(261隻)	44隻減
RORO船	50	(37)	13隻増
自動車専用船	10	(14)	4隻減
在来船	240	(293)	53隻減
その他船	245	(206)	39隻増

2. 傾向と要因

- ・年末年始荷役実施は、前年と比べ2港減少している。
- ・隻数については、全国では49隻の減。6大港では21隻の減、その他主要港と地方港では28隻減少している。
- ・船型については、コンテナ船、在来船がそれぞれ50隻前後減少しているが、その他船が40隻ほど増加している。
- ・日にち(曜日)別に見ると、昨年と比べ期間中の平日が2日から3日に増えたものの、増加したのは1月3日のみで、それ以外は前年並みの1月1日を除き減少している。

3. 外航コンテナ船取扱個数の比較

- ・隻数、取扱個数ともに前年より減少したが、1隻当たりの取扱個数については前年同期比で横ばいだった。
- ・コンテナ船217隻、全てが外航コンテナ船であり、隻数は前年を37隻下回り、取扱個数も約9万6000TEUと前年を約1万4000TEU下回った。
- ・6大港のコンテナ船入港隻数は165隻(前年比21隻減)であるが、大阪港と神戸港が増加した。取扱個数では東京、川崎、大阪、神戸が前年を上回った。
- ・その他主要港と地方港では、隻数、取扱個数とも減少したが、1隻当たりの取扱個数は前年を上回った。
- ・中国航路船が全体の約45%を占めている。

年末年始の本船荷役実績
 (2023.12.31 ~ 2024.1.4)

(隻)

区分		コンテナ船	その他 〔RORO、自動車〕 〔在来船、その他〕	合計
主要港	東京	33 (37)	3 (4)	36 (41)
	横浜	30 (42)	15 (9)	45 (51)
	川崎	3 (5)	17 (16)	20 (21)
	名古屋	21 (30)	17 (14)	38 (44)
	大阪	32 (29)	28 (36)	60 (65)
	神戸	36 (37)	19 (10)	55 (47)
	関門	10 (12)	29 (33)	39 (45)
	6大港計	165 (192)	128 (122)	293 (314)
その他主要港	千葉	0 (1)	20 (20)	20 (21)
	清水	6 (11)	0 (0)	6 (11)
	四日市	6 (6)	5 (6)	11 (12)
	博多	15 (13)	4 (3)	19 (16)
	その他主要港計	27 (31)	29 (29)	56 (60)
11港計		192 (223)	157 (151)	349 (374)
その他の港湾 (50港)		25 (38)	388 (399)	413 (437)
合計 (61港)		217 (261)	545 (550)	762 (811)

注) 1. ()内の数値については昨年実績
 2. 数値は、外航船、内航船の合計値